東安中学校の道徳教育

令和７年７月８日

1.「ぎふ いのちの教育」に関する取組について

- **「自己有用感」を高める道徳教育**
  - 他者から必要とされることで自分の有用性を感じることができるようにするために、６月には「グットーーーク」活動を行い、日常の仲間の姿から良い姿を見つけるようにした。３～４人の小集団を意図的に作り、その中で仲間のよい姿を見つけるよう生活し、帰りの会で交流した。「○○さんが小集団学習で分からないところを教えてくれて分かるようになったよ。ありがとう。」「2 分前までに掃除場所に行き掃除を始めている姿を見て、自分の仕事に責任をもてているなと思いました。」といった交流があり、一人一人について必ず良い姿を見つけて相手に伝えたり、相手から認めてもらうことにより、自己有用感を感じられる取組となった。こうした取り組みによって自分に向けられた気持ちは、道徳の時間に、相互の思いやりの気持ちや勤労、責任感などの内容項目において自己を振り返る際に、自分以外の他者にも向けられるきっかけとなっている。

- **自他の生命を尊重し、よりよい生き方を追求する生徒の育成**
  - 道徳の時間において、主人公の言動の背景にある気持ちについて考えるとともに、仲間の発言を聞くことを通して多様な考え方に触れ、それをもとに今までの自己を振り返る時間を大切にしている。特に内容項目「思いやり」や「生命尊重」においては、学級や班の仲間を大切にするよう意識して自己を振り返るように促している。
  - 本校では、教科や道徳の時間、短学活等において小集団による学び合いを大切にしており、仲間の発言に傾聴することで仲間の存在を大切にするように指導している。こうした姿を価値付け、道徳的実践力を育てるよう取り組んでいる。
  - 「東安中学校人権宣言」をもとに、「ひびきあい活動」を核として、年間を通して人権感覚の育成に取り組んでいる。本年度は「グットーーーク」活動、昨年度は「エンジェルリング」活動を通して、仲間のよい姿をたくさん見つけたり、相手の心と立場を大切にした温かい言葉を使ったりするよう取り組むとともに、偏見や差別におかしいと気付いて周りの大人や友達にまずは伝えることを大切にするよう指導している。また、昨年度行った学級集団エクセサイズでは、「あってよい違いか、許してはいけない違いか」「相手が傷つかないように自分の気持ちを伝えるには」をテーマとして小集団での意見交流を行い、あるべき姿について学級で共通理解することができた。
  - 安八町保健センターから講師を招いて、いのちの教育の授業を行っている。保健センターでは、子どもたちが健全な父性や母性を育み、将来の安全な妊娠・出産・育児を迎えることができるよう、「からだ」と「こころ」や「生（＝性)」に関する行動について学習する講座を行っている。３年生では「安全なお産を支えるための『いのちの教育』」、２年生は「いのちの教育『望ましい交際』」、１年生では「思春期の心と体の成長や、受精から出産までの赤ちゃんの様子」について学習した。
  - 昨年度は花を育てて地域のお年寄りに届ける活動「フラワースマイル・プロジェクト」を行い、本年度は２年生が花を育てる活動を行っており、花を育てることによって生命を育て関わるきっかけとしている。

- **キャリア教育と関連づけた「夢や希望」を育む道徳教育**

自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、生きる力の基盤となる力を育むように、学校体制で意図的にキャリア教育と関連付けながら以下の取組を実践している。

・ 卒業生から本校生徒に講話をしていただく「ようこそ先輩！先輩の生き方から学ぶ」会を毎年行っている。昨年度は実業団駅伝等で活躍している長距離選手を招いて、その生き方を拝聴した。長距離走を始めたきっかけや、指導者、親に支えてもらいながら幾多の壁に対して努力によって乗り越え、箱根駅伝の本戦に出場した学生時代の経験を通して、目標をもって努力することで自分の可能性や人生を拓くことができると教えていただいた。そして、将来進路先や職業を選択するにあたり、中学生としてやっておくとよいことについて、道を示していただいた。

・ １・２年生の宿泊研修、３年生の修学旅行では、林業や漁業・民宿業、ディズニーで働く方から職業講話をしていただいた。また、２年生では職場体験学習を行い、生徒たちは働くことの楽しさや大変さ、やりがいを学ぶことができ、自分の将来を考えるよい機会となっている。また、こうした体験を２年生から１年生に伝える時間も設定しており、１年生も２年生の経験から学んでいる。

・ 伝統を引き継ぐ会では、３年生から１・２年生に伝統を継承する節目として、全校で思いや願いを共有する場「伝統を引き継ぐ会」を行っている。３年生は、一人一人が東安中学校で過ごした３年間を振り返って書いた「自分史」を１・２年生に語り、目指す生き方を示している。１・２年生は３年生の生き方から学び、自分の生き方に生かそうとする決意をもつことができている。

２. 町の道徳教育の重点　及び　本校の道徳教育の重点目標について

- **家庭や地域社会と連携し、豊かな体験を通して道徳性が養われるような取組と、「地域ぐるみの道徳教育」の推進について**

・ 大垣市と安八町、２つの行政区を校区にもつ本校では、互いの地域のことを知ったり地域に出て行って大人の方と触れ合ったりすることよって、ふるさとに愛着をもち地域社会人として育っていく第一歩であると考え、学校運営協議会や生徒会が連携して「クリーン・トゥゲザー・フェスティバル」や「東安地区魅力発見ウォークラリー」、「横断歩道の日」等の行事を行っている。これらの活動は小学校にも働きかけ、共に取り組んでいただいている。地域の大人が交通安全の見守りをしてくださったり、チェックポイントで熱心に説明をしてくださったりする姿などを見て、地域の大人の姿から地域に貢献しようとする思いや地域を大切に思う郷土愛を育むことができている。これに合わせて、道徳の時間に郷土愛の内容項目を取り上げ、関連付けて自己を振り返るようにしている。

・ また、地域の各種団体から依頼があるボランティア活動にも積極的に参加するように促している。年間を通じて多数行われるボランティア活動では、お年寄りから幼児まで幅広い年齢層の方と触れ合う機会があり、社会性や思いやりの気持ちを培う場となっている。多くの生徒は、地域の活性化やコミュニティーの強化に貢献しているというやりがいを見出している。

- **「勤労」について**

・ ２年生での職場体験や３年生での進路選択等、全教育活動を通じて、道徳の時間につかんだ「働くことの尊さや意義」をもとに自己の生き方について見つめるように指導をしている。一人の社会人として生きていけるよう、生徒会活動での「一人 一役 一リーダー」の活動やスポーツフェスティバルを通じて、ひた向きに自分の役割に取り組んだり仲間のために貢献しようとしたりする姿を認め励ますようにしている。